

## 報道関係各位

株式会社ベネッセコーポレーション  
代表取締役社長兼 COO 福島 保  
(コード番号 9783 東証・大証第一部)

「第3回 子育て生活基本調査(小・中学生の保護者対象)」の結果速報  
**教育に関する保護者の不安が増し、子どもへの関与が強まった9年間  
一方で、保護者が子どもや自分自身の成長を実感する機会は減少**

株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市、以下ベネッセ)のシンクタンク「Benesse 教育研究開発センター」は、2007年9月、首都圏(東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県)の小・中学校の子どもをもつ保護者7,282名(このうち6,770名の母親が分析対象)に、しつけや教育に関する意識・実態調査「第3回 子育て生活基本調査」を行いました。この調査は1998年、2002年に続き今回が3回目となります。

今回の調査結果からは、この9年間で子どもの教育に関する保護者の不安が増し、保護者が子どもの教育面における関与を強めていることが分かりました。

子どもの教育方針に関する項目では、「子どもの将来を考えると、習い事や塾に通わせないと不安である」(98年42.7%→07年51.7%)、「子どもの教育・進学面では世間一般の流れに乗り遅れないようにしている」(98年46.9%→07年55.8%)、「教育に必要なお金はかけるようにしている」(98年70.8%→07年76.3%)と、いずれの項目も「あてはまる」とする保護者が増加し続けています。一方で「勉強のことは口出しせず、子どもにまかせている」(98年49.5%→07年40.4%)は「あてはまる」とする保護者が減少し続けています。

また、各家庭の1ヶ月あたりの学校外での教育費は、02年は平均18,235円だったのに対し07年は19,438円となっており、1,203円増加しています。

子どもの生活習慣に関する項目では、「遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓」(02年58.3%→07年52.5%)、「決まった時間に起床・就寝すること」(02年69.1%→07年65.9%)など、子どもが「一人で行える」とする保護者の割合が減少しており、子どもの生活習慣や自立状況に「満足している」という保護者が減少していることが分かります。

さらには日常生活の中で「子どもが成長したと感じる」(98年74.5%→07年56.6%)、「子どもをもつことによって自分自身が成長したと感じる」(98年54.0%→07年47.9%)と、子どもや自分自身が成長したと実感する機会が少なくなっていることも明らかになっています。

子どもを取り巻く状況を見ると、学校では「確かな学力」の育成のため、子どもたちに宿題を課す頻度や家庭学習の指導を行うことが増えています。(「第4回 学習指導基本調査」より)。今回の調査結果からは、学校だけではなく保護者も教育面における関与を強めていることが分かりました。

今後は学習への関与や支援のみに留まらず、「自立」という観点から、子どもが学習と生活の両面においてバランスよく成長できるような関わり方をしていくことが課題と考えられます。

「第4回 学習指導基本調査」:「Benesse 教育研究開発センター」が全国の公立小・中学校の教員ならびに校長を対象に行った学習指導の実態と教員の意識調査(07年8月~9月実施)。

([http://benesse.jp/berd/center/open/report/shidou\\_kihon/soku/index.html](http://benesse.jp/berd/center/open/report/shidou_kihon/soku/index.html))

## 調査概要

テーマ	小・中学生を持つ保護者の子育ての実態、しつけや教育に関する意識
時期	2007年9月(第1回は1998年、第2回は2002年に実施)
調査方法	学校を通じた家庭での自記式質問紙調査
調査地域	首都圏(東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県)
調査対象	小学1年生から中学3年生の子どもをもつ保護者7,282名 (配布数9,962通、回収率73.1%) *分析は母親(6,770名)のみを対象とした。
調査企画・分析メンバー	樋田大二郎(青山学院大学教授)、山岡テイ(情報教育研究所所長)、木村敬子(聖徳大学教授)、櫻井茂男(筑波大学教授)、木村治生(Benesse教育研究開発センター教育調査室室長)、邵勤風(Benesse教育研究開発センター研究員)、河村洋子(Benesse教育研究開発センター研究員)

## 特徴的な調査結果

### 家庭の教育方針

「子どもの将来を考えると、習い事や塾に通わせないと不安である」が9年間で9.0ポイント増加し、子どもの教育に関する不安がますます高まっている。同時に、「勉強のことは口出しせず、子どもにまかせている」が9.1ポイント減少し、保護者の教育面における関与が強まっている。



注1 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

注2 小3~中3生の数値。

## 教育費

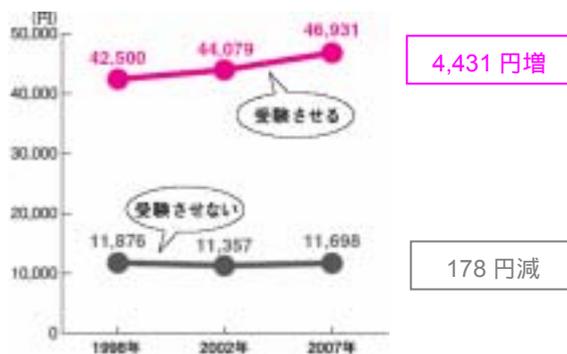
各家庭の1ヶ月あたりの学校外での教育費は増加傾向にあり、平均額は02年から1,203円増加した。ただし、子どもが小学校高学年の場合、07年調査では中学校を「受験させる」家庭の教育費は「受験させない」家庭の4.0倍以上であり、二極化の傾向が強まっている。



注1 小3～中3生の数値。

注2 「今までに学校以外の塾や習い事、スポーツクラブ、通信教育・教材などを利用したことがありますか」という質問に対して「いいえ」と回答した者は、「5,000円未満」に含めた。

注3 1人あたりの平均教育費は、「5,000円未満」を2,500円、「5,000円～10,000円未満」を7,500円、「60,000円以上」を65,000円のように置き換え、無答不明を除いて算出した。



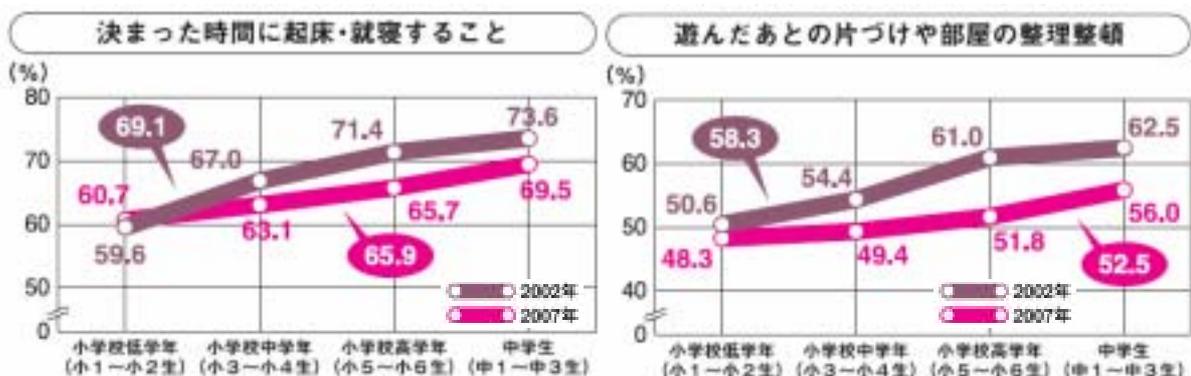
注1 小5～小6生の数値。

注2 「お子様に中学受験をさせますか」の質問に対する回答別に集計。「まだ決めていない」は図から省略した。

注3 1人あたりの平均教育費の算出方法は、上図と同様。

## 日ごろの生活習慣や自立の状況への満足度

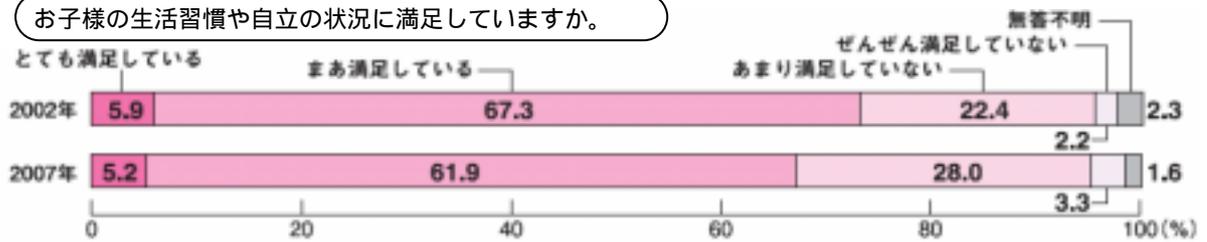
起床・就寝、整理整頓、食事のマナーなど、子どもの基本的な生活習慣について「一人できる」という回答が、02年と比べると減少している。さらに、子どもの自立状況に「満足している」割合が低下している(2002年73.2%→2007年67.1% : 「とても満足している」+「まあ満足している」の%)



注1 「完全に一人できる」+「だいたい一人できる」の%。吹き出しは、小1～中3生の全体値。

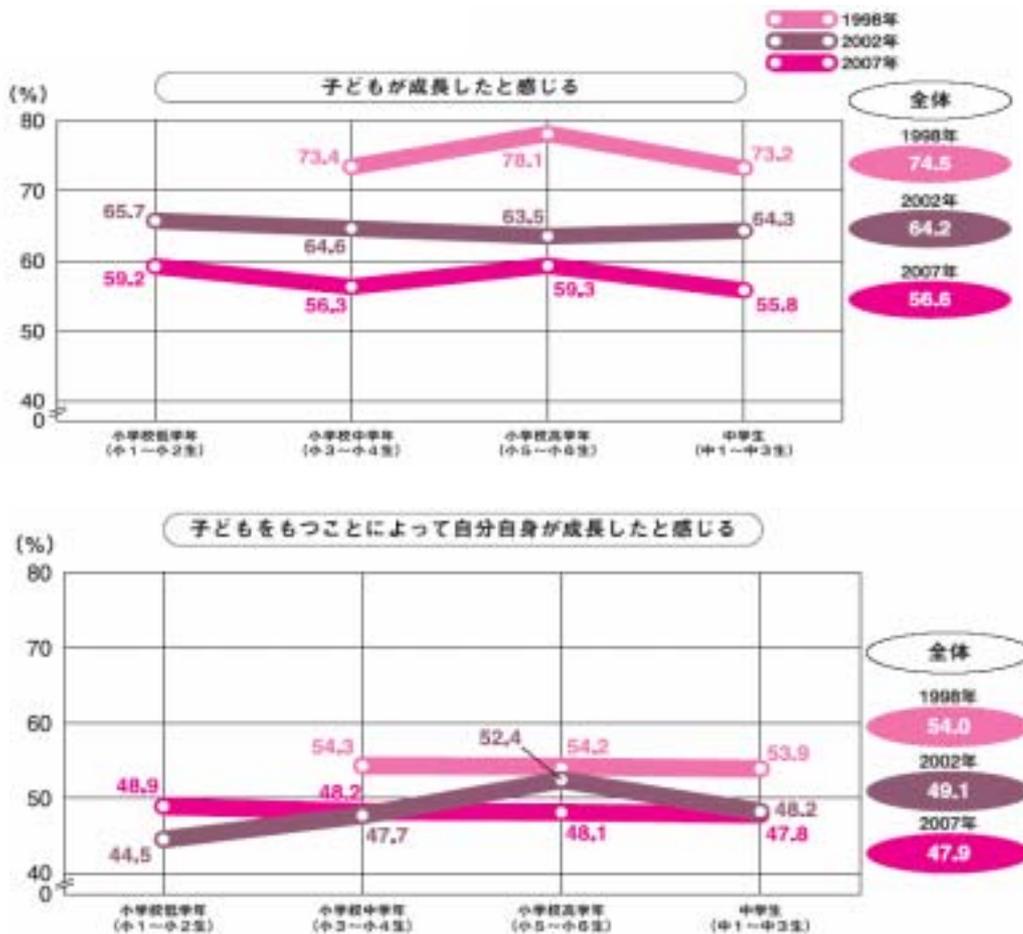
注2 1998年は該当質問項目なし。

お子様の生活習慣や自立の状況に満足していますか。



日頃の生活の中で、以下のようなことがどれくらいありますか。

この9年間で、「子どもが成長したと感じる」が17.9ポイント、「子どもをもつことによって自分自身が成長したと感じる」が6.1ポイント減少した。子育てを通して、子どもや自分自身の成長を実感できる機会が少なくなっている。



注1 「よくある」の%。

注2 1998年は、小学校低学年(小1~小2生)の保護者を調査対象に含めていない。

注3 「全体」は小3~中3生の数値。

**< Benesse 教育研究開発センターの活動 / Benesse 教育情報サイトでの情報提供について >**

Benesse 教育研究開発センター (<http://benesse.jp/berd/>) では、今後も、時代の変化に即したテーマで調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。また、Benesse 教育情報サイト (<http://benesse.jp/>) では、ベネッセが保有する教育関連の各種データを公開しています。